

2. 火山の概況 (平成 15 年 5 月 15 日 ~ 平成 15 年 5 月 21 日)

十勝岳・浅間山では微動があった。御嶽山では周辺の地震がやや多くなった。三宅島では噴煙活動が継続した。阿蘇山では中岳第一火口の温度に上昇傾向がみられた。諏訪之瀬島では一時的に地震がやや多くなった。

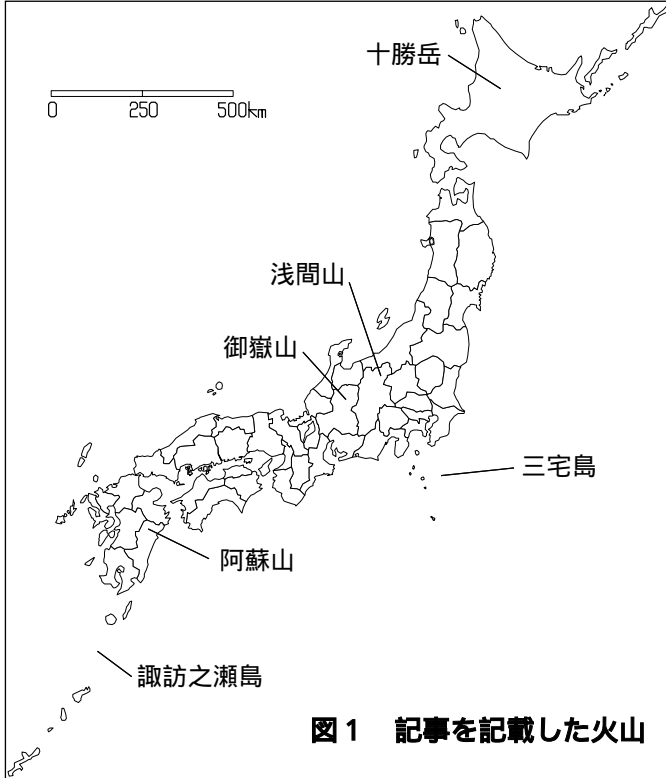


表 1 最近 1 か月に記事を記載した火山

号	対象期間	十勝岳	浅間山	御嶽山	三宅島	八丈島	阿蘇山	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
21	5/15- 5/21										
20	5/ 8- 5/14										
19	5/ 1- 5/ 7										
18	4/24- 4/30										
17	4/17- 4/23										

注 1 記号の意味

- : 噴火した火山
- : 観測データ等に变化があった火山
- : 前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

注 2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

十勝岳 [微動]

19日 02時 21分頃から、継続時間が約 10 分間の微動（最大振幅 0.15 μm（マイクロメートル））が観測された（微動の発生は 4 月 27 日以来）。前回の微動と比較して、振幅はほぼ同じで、継続時間は半分程度であった。

なお、微動の発生前後に地震の増加はなく、噴煙の状況にも特に異常な変化はなかった。

浅間山 [微動]

振幅の小さい微動が、16、19日に各 1 回、20日に 2 回発生した。このうち 20日に発生した継続時間 1 分前後の 2 回の微動は、2 月 6 日以降のごく小規模な噴火に伴い発生した微動に類似していたが、火山灰を含む噴煙の噴出は確認されなかった。また、いずれの微動についても、噴煙、地殻変動等その他の観測データに異常な変化はみられなかった。

白色噴煙の放出は継続しており、最高は火口縁上 300m（20日）であった。

地震回数は、1 日当たり 12~20 回で、これまでと比べ特段の変化はみられなかった。

群馬県林務部設置の高感度カメラ及び赤外カメラによる火口内の観測では、火口底が明るくなる現象が今期間も引き続き観測された。

GPS による地殻変動観測では、特に異常な変化は観測されなかった。

御嶽山 [地震]

18日 03時 23分に、山頂の東南東約 10km 付近、深さ約 7 km を震源とする M（マグニチュード）4.5、最大震度 4 を観測する地震が発生した。その後余震が続き、一日当たりの地震回数は 18日 145 回、19日 60 回、20日 26 回、21日 22 回となった。なお、これらの地震は、1984 年長野県西部地震の余震域

で発生しており、火山活動との関連はないと考えられる。

GPS による地殻変動観測では、特に異常な変化は観測されなかった。

三宅島 [熱・噴煙]

21 日に気象庁、産業技術総合研究所及び大学合同観測班が行った上空からの観測¹⁾では、主火口からの白色噴煙の放出が継続し、火山ガスを含む青白い噴煙が火口上空から南へ流れていた。山体の地形や火口の状況等に大きな変化はなかった。赤外熱映像装置による観測では、火口内の最高温度は 217 であった（前回（1 日）336）。

監視カメラによる観測では、白色噴煙は連続的に噴出しており、高さの最高は火口縁上 500m（21 日）であった（前期間 500m）。

振幅の大きな低周波地震は発生しておらず、地震活動は平穏な状態であった。

GPS による地殻変動観測では、三宅島の収縮を示していた地殻変動は収まっている。

1) 陸上自衛隊の協力による

阿蘇山 [熱]

21 日に実施した中岳第一火口の観測では、赤外放射温度計による南側火口壁の最高温度は 530（前回（2 日）500）と上昇傾向がみられた。また、火口内は依然として全面が湯だまり¹⁾状態で、湯の色は緑色であったが、湯だまりの最高温度は 70（前回（2 日）64）と上昇し、湯だまりの中央部に噴湯現象が確認された。浅部の熱的な活動がより高くなる傾向がみられる。

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上 500m（18 日）で、大きな変化はなかった（前期間 500m）。

孤立型微動及び地震の発生回数は少ない状態が続いた（以上図 2）。

- 1) 湯だまり：活動静穏期の中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約 50～60 の緑色のお湯が溜まっている（湯だまり）。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を吹き上げる土砂噴現象等が起こり始めることが知られている。

諏訪之瀬島 [地震]

今期間、爆発はなかった。

15 日 09 時頃～11 時頃にかけて、A 型地震¹⁾が 14 回と一時的に多く発生し、15 日の日回数は 17 回であった。17 日も日回数が 14 回とやや多くなり、今期間の A 型地震の合計は 39 回であった（前期間 7 回）。

噴火活動の活発化を示す継続時間の長い微動は、今期間は発生しなかった。

- 1) A 型地震：火山性地震（火山体及びその周辺で発生する地震）のうち、P 波、S 波の相が明瞭で、比較的周期が短い地震。火山以外で一般的に起こる地震と同様、地殻の破壊によって発生していると考えられ、火山活動に直接関係する発生原因の例としては、マグマの貫入に伴う火道周辺での岩石破壊が知られている（1990 年の雲仙岳、2000 年の有珠山・三宅島など）。

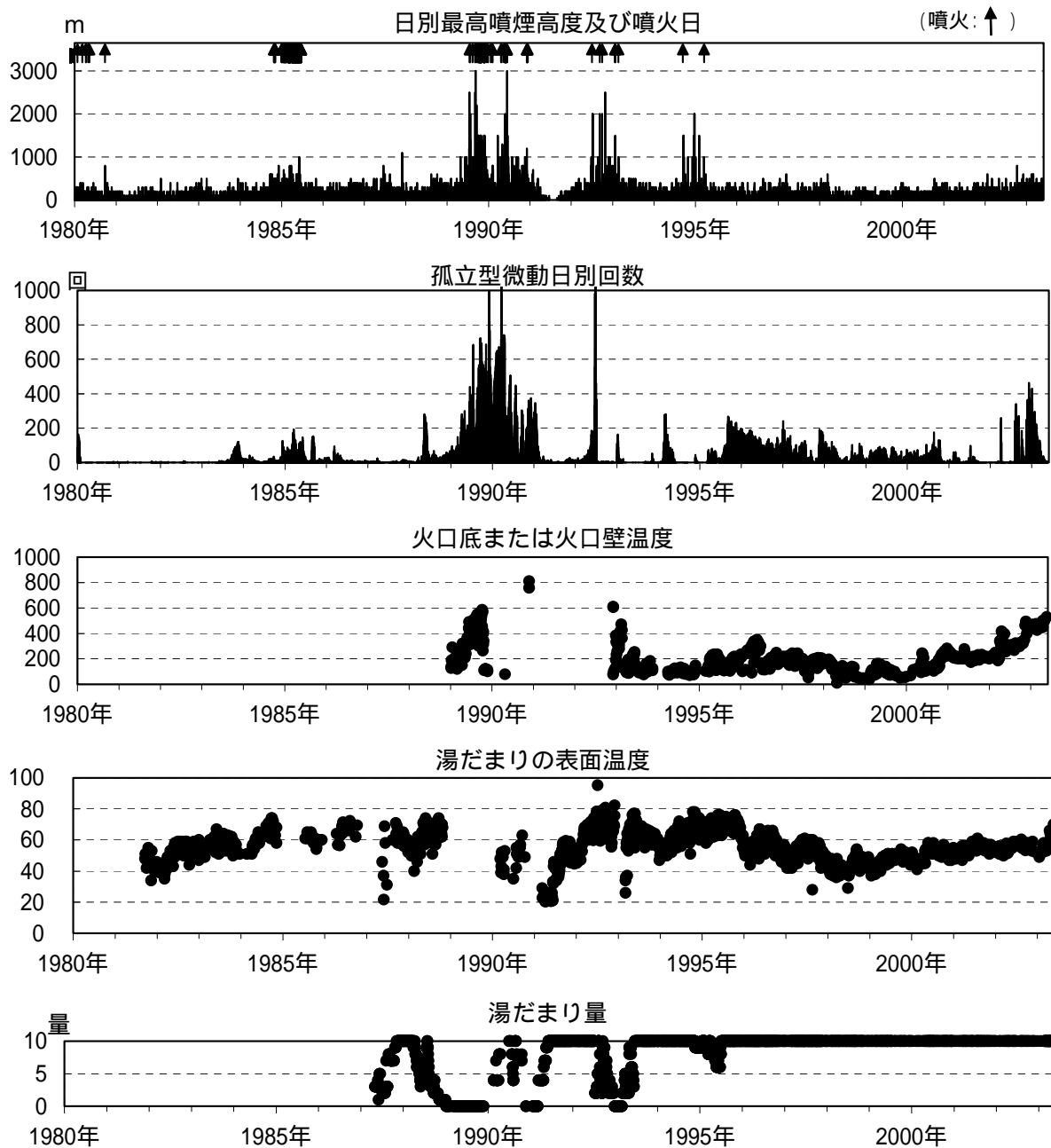


図2 阿蘇山 火山活動経過図(1980年1月～2003年5月)

1995年3月の噴火以降、中岳第一火口内は湯だまり量が10割(全面湯だまり)となっており、浅部の熱活動は平衡状態を保っている。しかし、1998年頃より火口壁温度及び湯だまりの表面温度の上昇傾向が続き、徐々に不安定な状態になりつつある。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第266号 (1日2回発表)	15日 09:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)
	火山観測情報第279号	21日 16:30	